

平成 28 年度第 1 回門真市めざせ世界へはばたけ事業推進委員会会議録

会議名称	平成 28 年度第 1 回門真市めざせ世界へはばたけ事業推進委員会
開催日時	平成 28 年 5 月 23 日（月）午後 5 時 00 分～6 時 00 分
開催場所	門真市役所本館 2 階 第 7 会議室
出席者	（委員長）柴田委員長 （副委員長）松宮副委員長 （委員）原委員、満永委員、三村委員、牧藪委員 【出席人数 6 人／全 7 人中】 （事務局）岡生涯学習部次長、清水生涯学習課長補佐、酒井学校教育課副参事、 松本生涯学習課係員
議題 （内容）	委員長、副委員長の選出 会議の公開について 第 5 回門真市中学生英語プレゼンテーションの報告 第 5 回門真市中学生海外派遣研修について 第 6 回門真市中学生英語プレゼンテーションコンテストについて 今後のスケジュールについて
傍聴者数	－（非公開のため）
担当部署	（担当課名）生涯学習部 生涯学習課 （電 話）06-6902-7139（直通）

<事務局>

それでは、平成 28 年度第 1 回門真市めざせ世界へはばたけ事業推進委員会を開催いたします。

まず初めに、人事異動により委員の一部に変更がございましたので、事務局より改めまして委員の皆様方をご紹介します。

関西外国語大学英語キャリア学部、松宮 新吾（まつみや しんご）教授でございます。

関西外国語大学部短期大学部、原 めぐみ（はら めぐみ）講師でございます。

教育委員会事務局学校教育部長、満永 誠一（みつなが せいいち）でございます。

教育委員会事務局生涯学習部長、柴田 昌彦（しばた まさひこ）でございます。

教育委員会事務局学校教育課長、三村 泰久（みむら やすひさ）でございます。

教育委員会事務局生涯学習課長、牧藪 友広（まきぞの ともひろ）でございます。

本日、委員をお願いしております関西外国語大学英語国際学部、西村 孝彦（にしむら たかひこ）教授はご欠席されておりますので、ご報告いたします。

続きまして、事務局の紹介をさせていただきます。

生涯学習部次長、岡でございます。生涯学習課課長補佐、清水でございます。

学校教育課副参事、酒井でございます。最後に私、生涯学習課、松本でございます。

よろしく願いいたします。

つづきまして、お手元の資料のご確認をお願いいたします。

まず、第1回推進委員会議事次第です。

1 ページ、資料1、門真市めざせ世界へはばたけ事業推進委員会名簿です。

2 ページから5 ページ、資料2、審議会等の会議の公開に関する指針です。

6 ページから8 ページ、資料3、門真市情報公開条例（抜粋）です。

9 ページから11 ページ、資料4、門真市附属機関に関する条例の施行に関する門真市教育委員会規則です。

12 ページ、資料5、第5回門真市中学生英語プレゼンテーションコンテスト報告です。

13 ページから15 ページ、資料6、第5回門真市中学生海外派遣研修行程表（予定）です。

16 ページから18 ページ、資料7、第6回門真市中学生英語プレゼンテーションコンテスト実施要項（案）です。

資料8については、議事次第の隣に置いております。資料8-1、第6回門真市中学生英語プレゼンテーションコンテスト応募用紙（案）です。資料8-2、第5回門真市中学生英語プレゼンテーションコンテスト応募用紙です。こちらは、昨年度の応募用紙となります。

また、先ほどの資料に戻り、19 ページから20 ページ、資料9、第6回門真市中学生英語プレゼンテーションコンテスト一次審査実施要領（案）です。

21 ページ、資料10、第6回門真市中学生英語プレゼンテーションコンテスト二次審査実施要領（案）です。

22 ページから 24 ページ、資料 11、第 6 回門真市中学生英語プレゼンテーションコンテスト審査実施要領（案）です。

25 ページ、資料 12、めざせ世界へはばたけ事業課題と対策（案）です。

お手元がないものがございましたら、ご連絡いただきますようお願いいたします。

それでは、案件 1 「委員長、副委員長の選出」に入りたいと思います。

お手元にございます資料の 9 ページ、資料 4 をご覧ください。

門真市附属機関に関する条例の施行に関する門真市教育委員会規則第 4 条の規定により、委員長及び副委員長は互選により定めることとなっておりますことから、委員の皆様により互選していただきたく、存じます。皆様、いかがでしょうか。

<牧菌委員>

昨年に引き続き、委員長には柴田委員を、副委員長には松宮委員を推薦します。

<事務局>

ありがとうございます。ただいま、牧菌委員から委員長に柴田委員、副委員長に松宮委員をとのご推薦がありましたが、いかがでしょうか。

<推進委員>

異議なし

<事務局>

ただいま、異議なしの声をいただきましたので、昨年に引き続き委員長には、柴田委員に、副委員長には、松宮委員にお願いしたいと思います。柴田委員は委員長席へ、松宮委員は副委員長席へ移動をお願いします。

それでは、今後の議事運営を柴田委員長にお願いしたいと存じます。委員長よろしくお願いいたします。

<柴田委員長>

昨年に引き続きまして委員長を仰せつかりましたので、皆さんの協力で今年もこの

事業を進めて参りたいと思います。毎年進化する事業になります。P D C Aサイクルに添ってより良い事業になるように進めて参りたいと思いますので、どうぞご支援、ご協力をよろしくお願いいたします。

それでは案件2、本推進委員会の公開・非公開について事務局から説明をお願いします。

<事務局>

本市におきましては、お手元の資料の2ページ、資料2「審議会等の会議の公開に関する指針」第3条において、審議会等の会議は公開するものとしておりますが、本委員会の会議につきましては、率直な意見の交換や意思決定の中立性が不当にそこなわれる恐れがあることから、非公開とすることが適切と考えております。このことについて、ご検討をお願いいたします。

<柴田委員長>

ただいま、事務局から会議を非公開とすることが適切との提案がありましたが、いかがでしょうか。

<推進委員>

異議なし

<柴田委員長>

それでは、事務局の提案どおり、本委員会の会議は非公開とします。続きまして、本委員会の会議録について事務局から説明をお願いします。

<事務局>

本委員会の会議録につきましては、3ページ、資料2「審議会等の会議の公開に関する指針」第8条第2項に基づき、会議録を公表します。また、会議録の作成につきましては、6ページ、資料3「門真市情報公開条例（抜粋）」の第6条各号に掲げる不開示情報に該当する情報について十分に配慮したうえ、全文筆記で作成したいと存

じます。

<柴田委員長>

ただいま、事務局より会議録の公開と作成について提案がありましたが、いかがでしょうか。

<推進委員>

異議なし

<柴田委員長>

それでは、本委員会の会議録は全文筆記とし、公表は事務局案のとおり行います。つぎに、案件3. 第5回プレゼンテーションコンテストの報告について事務局から説明をお願いします。

<事務局>

それでは、ご報告いたします。12 ページ、資料5をご覧ください。

第5回門真市中学生英語プレゼンテーションコンテストは、平成28年2月21日(日)に開催いたしました。当日来場者数は、250名で会場の定員を超える程の来場者があり、立ち見が出る程でした。見たいプレゼンテーションだけを見るなど、ポイントを絞って見られる方が多く、来場者の入れ替わりが多く見受けられました。

応募者数は747名で、内訳は、第二中学校が274名、第三中学校が150名、第四中学校が90名、第五中学校が130名、第七中学校が85名、門真はすはな中学校が15名、私立中学校が3名となります。

次に、一次審査(書類)通過者65名(うち6名辞退)、二次審査(面接)通過者18名となります。コンテストの出場者は、18名で、受賞者の内訳は、最優秀賞1名、優秀賞8名、奨励賞9名となります。詳細については、資料のとおりとなります。以上で報告を終わります。

<柴田委員長>

ありがとうございました。何かこの件につきましてご質問等ございませんでしょうか？

それでは、次の案件に移らせていただきたいと思います。

それでは次の案件、第5回門真市中学生海外派遣研修について、事務局よりご説明をお願いします。

<事務局>

それでは、ご説明いたします。13 ページ、資料6をご覧ください。第5回門真市中学生海外派遣研修は、平成28年7月30日（土）から8日（月）までの10日間、第5回門真市中学生英語プレゼンテーションコンテスト出場者の内9名と引率職員2名、そして添乗員1名が同行して、オーストラリア、アデレード市へ行く予定となっております。門真市立第四中学校の細川先生と生涯学習課の松本が引率職員として同行いたします。研修先は、昨年度と同様のチャールズ・キャンベル・カレッジです。海外派遣研修に先立ち、事前研修を3回行います。事前研修では、市内英語教員と関西外国語大学の学生の参加の協力を得て、研修生が持ってきた家族や学校、大切にしている物の写真を、英語で説明する練習に重点を置いて、ホームステイでの英会話の練習を行います。3回目の事前研修では、松宮教授のご協力を得て、現地校とスカイプ交流を行う予定にしております。

現地オーストラリアでは、1ホストファミリーに1名の研修生がステイする形を取り、学校では、バディと呼ばれる学生についてもらい、一緒に授業を受けます。課外学習では、クリーランド野生動物保護区や南オーストラリア州立博物館を見学します。また、フェアウェルパーティーでは、研修生によるプレゼンテーションを行います。帰りのシンガポールでのトランジットでは、異文化学習を目的にシンガポールの文化研究施設を見学する予定にしております。

<柴田委員長>

ありがとうございました。何かこの件につきましてご質問等ございませんでしょうか？

<松宮副委員長>

今年の予定では、長い時間があるシンガポールを活用しようということで、現地の非常にユニークな文化や人々に触れるというプログラムが設けてあり、良い事だと思います。ただ狭い地域であるので移動の際は、十分注意されますように。期待をしております。

<柴田委員長>

それでは次の案件、今年度の第6回プレゼンテーションコンテストについて、事務局よりご説明をお願いします。

<事務局>

それでは、ご説明いたします。本推進委員会では、今回6回目を迎えるに当たり、改めて応募・審査方法、実施内容についてご検討いただきたいと考えております。

まず、16ページ、資料7をご覧ください。第6回門真市中学生英語プレゼンテーションコンテスト実施要項（案）についてご説明いたします。昨年度との変更箇所は、網掛け部分となります。

18ページ、13. プレゼンテーションコンテスト（3）時間という部分をご覧ください。「発表時間についても審査の対象となります」と文言を変更しております。以前は、「4分を超えた場合は減点します」と記載しており、発表時間より発表内容により重点を置いてもらいやすくするために変更しております。

次に、資料8-1をご覧ください。応募用紙（案）についてご説明いたします。応募用紙3枚目を発表内容を記入するページに、応募用紙4枚目を発表内容を組み立てるページに、変更しております。発表内容組み立てのページについては、審査の対象とせず、自由に使ってもらうページにしております。昨年度の様式については、資料

8-2となりますので、ご覧ください。昨年度は、3枚目、4枚目を発表内容を記入するページとしておりましたが、発表内容を組み立てるページがある方が記入しやすいとの英語教員の意見を参考に、今回変更しております。発表内容の組み立て方①～④番については、中学校で使用している教科書とプレゼンテーションコンテストの事前研修の際に使用している「中学生のためのプレゼンテーション・マニュアル」を参考に作成しております。

最後に25ページ、資料12をご覧ください。めざせ世界へはばたけ事業課題と対策(案)について、ご説明いたします。

1のコンテスト応募者数の年度毎、学校毎の不安定さについて、応募者数を安定的に確保できるようにするため、校長会等を通じて、学校をあげての取り組みとなるよう継続的に働きかけを行ってまいります。

2のプレゼンテーションコンテスト応募前後の意識調査について、一次審査通過者に対しては二次審査事前研修の際に、二次審査通過者に対しては、コンテスト事前研修の際にアンケート調査を実施します。アンケートについては、生徒だけでなく、保護者に対しても実施します。

3のブログの導入については、個人情報の管理やレスポンスの遅さ等の懸念事項の解決後、導入に向けて検討します。

4の第5回記念の実施について、事業が5年を経過し、市広報の1面、2面及びホームページを活用し、これまでの海外派遣研修生の現況や事業を通じての成長、また、学識経験者からの寄稿文などを掲載し、事業周知ができるものを作成する予定です。

<柴田委員長>

ありがとうございました。実施要領、応募用紙、課題と対策と幅広い説明がございましたが、まずは実施要領について何かご質問ございませんでしょうか？

<松宮副委員長>

添付資料8のコンテストの応募用紙を、各学校の指導される先生方のご意見を反映されて変更されたということで、これから使いやすく、応募者数が700～800名もななくとも、かなり効果的に見開きで見ることが出来るので、そういう意味では良い改定という印象を持っています。

<柴田委員長>

このページだけ別に印刷して、これを見ながら作るという事ですか。これも一緒に提出されるのですよね。

<事務局>

そうです。考えている経過を見たいということで、全部まとめて提出していただきます。

<松宮副委員長>

資料12の各委員から出された課題、理由、解決策が非常に重要になってくるだろうと思います。冒頭、委員長も言われたようにまた新たに生まれ変わっていくことの一番重要な部分になってくるかなと思います。ですから、この辺りを具体的に各学校の英語を指導される先生だけではなく、英語だけと言わず国語の時間であっても、少しそういった意識付けができるようなトータルな取り組みへ持って行く必要があるのかなと思います。その可能性を伺わせるのが、12ページの資料、これは、受賞者のみになりますが、18名の日本語、英語のタイトル、いわゆる内容ですよね。入賞したものの中心が、その人の生き方、考え方、人生に関わるものが10本、文化に関わるものが3本、趣味というものが5本となっており、プレゼンテーションコンテストという人の心を説得するとか動かすとか熱く語る事ができるものは、どれを見ても自分の生活に直接関わること、信念、心情、それから自分が生きている社会の文化、その辺りが中心となってきています。

ある意味、もう少しバリエーションを持たせるという方法も学校教育のすべてのプ

ロセス、それぞれの教科の中で、そういった自分の意見、考えをまとめて人に訴えていくという部分も反映されてくるのかなと思います。そうすると、入賞まで持つてくる説得力のある熱のこもった内容というのが、もっと多様性を帯びてくるのかなと、そういうところも期待できるのかなと思います。英語やプレゼンテーションの能力に関しては、年々非常に高くなっているというのは、非常によく感じています。そういった意味での教育的な成果は出てきていますので、ある意味での節目をクリアできた訳です。更にもう一步生まれ変わっていくために、25 ページで挙げられている課題対策を具体的にブレークダウンするのは重要かと思います。

<柴田委員長>

ありがとうございました。

それでは、最後に案件6. 今後のスケジュールについて、事務局から説明をお願いします。

<事務局>

今後のスケジュールについてご説明いたします。海外派遣研修の事前研修については、昨年同様、計3回の事前研修を行います。第1回を6月4日(土)に、第2回を6月25日(土)に、第3回を7月22日(金)に行います。その内、第3回においては、スカイプ交流を行います。また、海外派遣研修については、7月30日(土)から8月8日(月)までの期間で実施し、8月27日(土)には、帰国後交流会を行います。

第6回プレゼンテーションコンテストは、7月の広報等におきまして募集を開始いたします。9月28日(水)に出場者の募集を終了し、10月上旬に書類審査、11月下旬に面接審査を実施いたします。第6回プレゼンテーションコンテストについては、平成29年2月26日(日)に開催いたします。コンテスト前には、昨年同様、計4回の事前研修を行います。

第2回門真市めざせ世界へはばたけ事業推進委員会の開催は、平成29年2月上旬から中旬を考えております。ここでは、海外派遣研修などの実施報告とプレゼンテーションコンテストの進捗状況について報告し、コンテスト最終審査当日の確認をお願いする予定としております。日程につきましては、改めてメールにてご調整をさせていただき予定としております。以上で、説明を終わります。

<柴田委員長>

ありがとうございました。何か事務局に確認しておくことはありませんか。

<柴田委員長>

この用紙なのですが、配布は学校に持って行かれますか。持って行くのであれば教頭先生、担当の先生方に今回から変わっている所の主旨を説明して、中学生にたくさん応募してもらえるよう配慮をお願いします。私立の方はどうですか。

<事務局>

私立の方も昨年同様、門真市から私立中学校に通っている人数の多い所の上位10校程度を目標に、事務局で訪問させていただき、プレゼンテーションコンテストの広報活動及び在籍する門真市在住の中学1、2年生へアプローチしていただけるよう、直接お願いにあがります。

<柴田委員長>

ホームページの動画なども活用できるかと思いますが、市立だけでなく、私立の方にも短いものでPRできるもの、呼びかけるような方法があればいいかと思います。

<事務局>

事務局から委員の皆様方にご意見をいただきたくお願いがあります。このコンテスト5回を終えることになりまして、このコンテストを含め、優秀な成績を収めた9名が代表して海外派遣研修に行っております。この件について、効果検証という部分で色々なご意見をもらっている中で、委員の皆様にも効果検証の部分について、ご意見

がありましたらいただきたく思います。特に松宮教授には第1回目から携わっていただいておりますので、その辺りについてのご意見をいただけたらお願いいたします。

<松宮副委員長>

5年目ということで、最初に対象となった生徒が高校3年生を迎えるというところで、1つは追跡的に見ていくという方法があります。人数が非常に限られていますので、例えばどんな高校、大学に行ったというレベルの検証はあまり説得力が無くなってきます。一番大事なことは参加している生徒の数だとか、応募されてくる文章の内容を解析するという方法があります。5年間の実施成果の指標を何にするか事務局の方で検討して、その辺りを具体的にデータとして示していく。すなわちエビデンスとしてこの事業実施成果を外に出せるような形にまとめていくことが我々の大きな仕事かと思っています。行路に関しては色々な可能性がありますので、ひとり一人の追跡をある程度してみる。母数がどんどん増えていく中での中学生が書いた文章を日本語、英語解析ソフトがありますので、客観的に数値として示すこともできます。あと、英語の先生に対するヒヤリングですね。ヒヤリングを通してどのような効果があったかをそれが授業の中でどれくらい意識されているのか、そういったものをエビデンスとして捉えておくということ。これが、事業の推進に向けて、色々な所で役に立つと考えております。先程アンケートを取るとありましたが、コンテストへの出席者、来場者へのアンケートもデータが残っていると思いますので、そういったものを整理してみると、5年間の事業指標、評価が簡単とは言いませんが十分に取れるだけのデータは揃っていると思います。

<柴田委員長>

5回が終わり、今回で6回目を迎えます。いつの掲載か分かりませんが、広報紙の1面、2面を使って出場した生徒が高校3年生になって、その時からどのように活かされているかを広報という媒体を使って市民の皆さんに周知する事は良い事だと思います。

います。何人ぐらい登場してもらえるか分かりませんが、できるだけ多く登場してもらえたらと思います。

<事務局>

紙面には限りがありますので、出来る限り、多くの子どもたちの意見を取り入れたいと思っています。全てを出せないと思いますので、その場合は、ホームページにリンクするような形で紹介させていただきたいと思います。先生方にも寄稿文をお願いするかもしれませんが、その時はよろしく願いいたします。

<柴田委員長>

それでは、以上をもちまして、平成 28 年度第 1 回門真市目めざせ世界へはばたけ事業推進委員会を終わらせていただきます。本日は、お忙しい中、ご出席いただきありがとうございました。今後ともよろしく願いいたします。